

教育の不易と流行の視点で 教育活動全体を見直し、 指導・評価の改善を起点に改革

福岡県・私立筑紫女学園中学・高校

社会で活躍する卒業生から 育成を目指す生徒像を定める

創立以来、福岡の地で理想の女子教育を追い求めてきた筑紫女学園中学・高校は、この数年、教育活動全体の見直しを進めてきた。松尾圭子校長は、その理由を次のように語る。

「『自律・和平・感恩』の校訓に示される本校の教育の不易は、これからも揺らぐことのないものです。その一方で、国の教育改革を受けて進めるべき、言わば教育の流行については、本校の教育活動の中にそれをどのように位置づけ、どのような資質・能力を生徒に育むのか、必ずしも明確ではありませんでした。そこで、本校の教育活動全体を総点検して、本校が育成を目指す資質・能力を明確にし、社会で自立できる生徒を育てたいと考えました」

同校は、2016年度に育成を目指す生徒像の議論を始めたが、様々な生徒像が挙がり、1つに定めることができなかった。そこでイメージしたのが社会で活躍する卒業生だ。彼女たちの共通点は何かを議論し、その結果、育成を目指す生徒像を「自己及び他者を理解することに努め、

育成を目指す生徒像と資質・能力

本校教育の目指す筑女生像

自己及び他者を理解することに努め、人と社会に寄り添うことのできる人間

筑女生として身につけさせる資質・能力

身近なところに問題を見つけ、自他を見つめ（他を思いやり、自分が何ができるかを考える）、知識を用いて皆と協力して問題解決へと向かうことのできる力

資質・能力の詳細 知識・理解、思考力・判断力・創造力、表現力・発信力、協働力・傾聴力、計画力・実行力、主体性・積極性、振り返りを次につなげる力

* 学校資料を基に編集部で作成

人と社会に寄り添うことのできる人間」と定めた。その上で、社会の変化や次期学習指導要領の内容、同校が抱える課題などを加味し、生徒に育む資質・能力を策定した(図1)。

新入生研修のグループ活動で ルーブリックによる評価を体験

教育の軸を明確にした上で、17年度、教育活動を「学習指導」「キャリア教育」「人間性の育成」の3本柱で整理し、3年間の流れとともに、各取り組みや指導の関連性を明確に

した「創MIRAIプログラム」を作成した。進路指導部長の友重雄一郎先生は、そのねらいをこう話す。「これまで単発的に行っていたそれぞれの教育活動や指導のねらいを根本から見つめ直し、理想の生徒を育てるという明確な目的の下、それぞれにつながりを持たせて1つのプログラムに集約させていきました」

例えば、高校1年次4月に行う「新入生研修」(2泊3日)では、18年度から、高校生活や学習に関して説明する従来の内容に加え、高校3年間を通してどのような資質・能力をどのように身につけていくのかを実感させるため、大学のアドミッシヨン・ポリシー(以下、AP)を読み解くグループ活動を取り入れた。その活動では、生徒は大学名が伏せられた状態で複数の大学のAPを比較し、各大学の特徴や共通点などの分析を通じて、広く求められる人材像や自分が伸ばす必要があることなどを話し合っており、発表。さらに、18年度、全教科で導入したルーブリックを同活動でも用いて、各自分で取り組みを振り返り、自己評価を行った。進路指導部の毛利祐貴先生はこう説明する。

* 「学校教育デザイン」とは、本誌が2017年度6～12月号の特集で提唱した、「学校教育目標からカリキュラム・指導計画の策定、授業・指導実践、その評価・検証、授業・指導改善までの一連のサイクルが、カリキュラム・マネジメントを通じて実現される学校改革の営み」のこと。



筑紫女学園中学・高校校長
松尾 圭子 まつお けいこ
教職歴35年。同校に赴任して1年目。



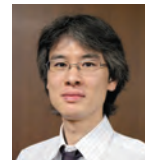
筑紫女学園中学・高校
小森あずさ こもり あずさ
教職歴30年。同校に赴任して27年目。高校1学年主任。生徒指導部。



筑紫女学園中学・高校
藤井 哲史 ふじい てるふみ
教職歴24年。同校に赴任して15年目。教務部長。



筑紫女学園中学・高校
友重 雄一郎 ともしげ ゆういちろう
教職歴23年。同校に赴任して23年目。進路指導部長。



筑紫女学園中学・高校
毛利 祐貴 もり たつき
教職歴14年。同校に赴任して13年目。進路指導部キャリア課長。

福岡県・私立筑紫女学園中学・高校

◎浄土真宗の教えに基づく人間教育を建学の精神とし、それを象徴的に表した「自律・平和・感恩」を校训として掲げる。一貫して知と心を育てる女子教育を実践し、1991年に中高一貫教育を開始した。

◎設立 1907（明治40）年

◎形態 全日制／普通科／女子

◎生徒数 1学年約500人

◎2018年度入試合格実績（現役のみ） 国立大は、東京大、京都大、大阪大、九州大、佐賀大、長崎大などに52人が合格。私立大は、慶應義塾大、早稲田大、同志社大、立命館大、筑紫女学園大などに延べ627人が合格。

◎URL <https://www.chikushi.ac.jp/hsc/>

「ルーブリックで示した各資質・能力の到達目標について説明した上で、自分たちの活動を振り返らせました。各教科の授業でも、それと同じようにルーブリック(図2)を使って評価し、学習・活動履歴をポートフォリオとして管理することを説明し、3年間の学習や生活の見通しを持たせました」

ルーブリックの導入で授業改善がさらに進む

そのようにして、3年間の目標と評価の手法を入学直後から意識させることで、生徒は身につけるべき資質・能力を意識しながら学習に取り組むようになり、自己評価の記入欄には「〇〇はできたが、△△がまだ苦手」など、自分自身を客観視できている記述が多く見られるという。

ルーブリックを使った評価は、指導と評価の一体化を進めるため、全教科で単元ごとに行うが、実際に導入し、授業の改善と表裏一体の関係にあることを実感したと、高校1学年主任の小森あずさ先生は語る。

「資質・能力をしっかりと伸ばそうと考えると、各単元の授業の構成を見

直す必要が出てきます。以前と同じ教材を使う場合でも、活動内容や発問が生徒の思考などを促すものに変りました」

また、18年度中に「Classi」(※1)のeポートフォリオを導入する予定であり、目的達成の手段としてICT活用を推進していく。

今後は課外活動の見直しも進めると、教務部長の藤井哲史先生は語る。

「学校行事や部活動などの位置づけを明確にした上で、これらの活動のあり方を捉え直し、教育活動を全体で効果的に資質・能力を伸ばすカリキュラム・マネジメントを実現させたいと考えています」

図2

単元ごとのルーブリック(例) 高校1年次「化学基礎」の「酸と塩基の反応」

教科ルーブリック		高1 化学基礎		単元ルーブリック			
単元	目標	評価基準 (「A」が現段階での到達目標のめやす)				自己評価の記入欄	
◆ 酸と塩基の反応	① 酸・塩基の定義や酸性・塩基性について、その本質が何であるかを説明できるようになる。 ② 酸や塩基の価数、強弱の分類法を、化学式や電離度に基づいて説明できるようになる。 ③ pHの定義を理解し、その計算方法を習得する。 ④ 酸・塩基の反応を理解し、中和するときの量的関係とその計算方法を習得する。 ⑤ 塩の定義と分類方法、塩の水溶液の性質、塩が起す反応を理解する。 ⑥ 中和滴定により、未知の濃度の酸や塩基を求めることができることを、実験操作を含めて理解し、その計算方法を習得する。	S: ★★★★★ 代表的な酸・塩基の名称と化学式、価数や強弱、電離や定義について説明できる。	A: ★★★ 代表的な酸・塩基の名称と化学式が書け、価数や強弱で分類でき、電離や定義まで理解できている。	B: ★★ 代表的な酸・塩基の名称と化学式が書け、価数や強弱で分類できる。	C: ★ 代表的な酸・塩基の名称と化学式が書け、価数や強弱で分類できない。	S-A-B-C	評価の判断理由
知識 (+基礎的技能)	知識・理解	pHと[H ⁺], [OH ⁻], K _a の関係性と計算方法の手順について説明できる。	pHと[H ⁺], [OH ⁻], K _a の関係性を理解し、計算することができる。	pHと[H ⁺], [OH ⁻], K _a の関係性を理解できている。	pHと[H ⁺], [OH ⁻], K _a の関係性を理解できない。		
	思考力・判断力・創造力	何を求めたいかに応じて、どのような測定実験をすればよいかを考察することができる。それを説明できる。	習得した知識を基に、測定実験に取り組み、結果について考察することができる。	酸と塩基の知識を、身近な物質や身近な事例と関連付けることができる。	酸と塩基の知識を、身近な物質や身近な事例と関連付けることができない。		
		自分の意見や考えを、相手の理解度に応じて説明できる。	自分の意見や考えを、理由や根拠を添えて説明できる。	自分の意見や考えを、他者や集団の意見や考えと対比して説明できる。	自分の意見や考えを、他者や集団の意見や考えと対比して説明できない。		

* 学校資料をそのまま掲載

※1 株式会社ベネッセホールディングスとソフトバンク株式会社の合併会社である Classi 株式会社が提供する、学校教育での ICT 活用を総合的に支援するサービス。

導かれた道標

指導と評価を一体化させ、それを生徒と教師が共有することで、授業改善が進む